

龍 灯

第 1 1 号

発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所
霊亀山 九 島 禅 院
〒550 大阪市西区本田 3丁目4-18

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智證)
☎06-582-5772

私がオバさんになっても 古い・若さの基順はない



森高千里という女性歌手が歌う『私がオバさんになっても』という歌謡曲が評判になっていきます。昨年末の紅白歌合戦にも出場したのでご存じな方も多いと思います。歌詞はざっと次のようなものです。

「秋が終われば冬が来る ほんとに早いわ (略) ・ 私がオバさんになっても 泳ぎに連れてくの? 派手な水着はともムリよ 若い子には負けるわ 私がオバさんになっても本当に変わらない? とでも心配だから (略) ・ 女ざかりは 十九だと あなたがいったのよ (略) ・ 私がオバさんになっても ディスコに連れてくの? ミニスカートはともムリよ 若い子には負けるわ (略) ・ 私がオバさんになっても あなたはオジさんよ お腹がでてるのよ (略) ・ (略) ・ という歌詞です。

要するに、私がオバさんになっても、若い時と同じように愛してくれるの? という気持ちを歌ったものです。

『私がオバさんになっても』という歌詞を裏返すと、若さこそ素晴らしいという価値観がみえます。『オジंकさあ』とは、吉本新喜劇のギャグのひとつですが、仏教では「若さ」と「古い」についてどのように説いているのでしょうか。

仏教では、この世のいっさいが「苦」であると教えています。お釈迦さまは、基本的な苦として「四苦(しく)」をあげられました。①生 ②老 ③病 ④死 で、この四つが人間にとって根源的な苦しみであるというのです。さらに、この四苦にくわえて、あと四つの苦があります。あとの四苦は、まず「愛別難苦(あいべつりく)」「一別難苦(いちべつりく)」「一苦はならぬ苦しみ、つぎは

怨憎会苦(おんぞうえく)」「でうらみ、憎んでいる者と会わねばならない苦です。第三は「求不得苦(ぐぶとく)」「求めて得られない苦しみ、最後は「五盛陰苦(ごじょうおんく)」「で自己に執着することから発する苦しみです。「四苦八苦(しくはつく)」という言葉は、ここからでています。

『バスターの白い空から』という遺稿集(佐野英二著 昨年六十五歳で病死)のなかに、人間の年齢に関する深い示唆とんでいる一文が載っていました。こんな話です。

社宅の執事ババロケに年をたずねると、「約四十歳だ」と言う。それを面白がって、日本から旅行者を招いた席で彼に再度たずねると今度は約三十五だ」と言う。

「その当時、僕は何と軽薄で

あったのか」と彼はのちにこずですが、どうしても年相応のエピソードを振り返る。「アフリカを離れて何年も経ったからようやく僕は気づくのであった年齢を、その時々で気分によって、思うがままに決めてよければ、僕はどれほど開放されるであろう、どれほど自由であろうかと」

「若い」「若さ」の基準であるのでしょうか。世間では年齢にふさわしい服装や生き方があるように思います。その基準からすれば、オバさんには派手な水着やミニスカートはふさわしくない。ましてやデイスコにでかけるのはおかしいとなります。しかしその基準というものは、じつにあいまいで不可思議なものです。しかも、その基準はどのような理由で作られたのかその基準に従わなければならぬという根拠も示されていません。だとしたら、そんな基準にとらわれずに、自分の好きな服装や生き方をしてもいいように差しつかえないは

ずですが、どうしても年相応に振る舞ってしまいます。結局、私たちは、心の底では年齢にこだわり服装にかぎらずすべてに自己規制を強い、自分自身をがんじがらめに縛りつけているのです。世の中には、物理的年齢が五十歳でも精神的、肉体的年齢が二十代の人もいれば、若年寄と呼ばれるような人もいます。そうした世間的な基準などを取り払って、自分にあつた服装をし、自分がよいと思つた生き方をすればいいのです。

龍燈にまへにも述べましたが、仏教では、ありとあらゆるものが『空(くう)』であると教えています。『空』とは、こだわりのないことですから、もしも年齢の基準にこだわることやめれば、もっと自由におおらかに生きられるのです。遺稿集にでてくる『住宅の執事ババロケ』の生き方こそ、『空(くう)』の根本そのものでしょう。



檀信徒の皆さまへ

なんでも質問箱

(問い) お布施について教えてください。

(答え) 布施は梵語ではダーナといい、布は『普』という意味で、慈悲の心をもつてあまねく施しを行うことです。布施には財施、法施、無畏

施(むいせ)があり、財施は財物を施すことであり、法施は仏法を説き施すことです。無畏施とは、形あるものを施すのでなく、人に安心を施し与えることで、布施のなかでも最上のものとされています。

これら布施を行う時の心構えとしては、施した人も、受けた人もとらわれの気持ちを残さないことが大切です。

「ご法事をしてお礼に財物を差し出すのだけがお布施と思うのは、布施のほんの一面で、それは法施・無畏

施(むいせ)があり、財施は財物を施すことであり、法施は仏法を説き施すことです。無畏施とは、形あるものを施すのでなく、人に安心を施し与えることで、布施のなかでも最上のものとされています。

これら布施を行う時の心構えとしては、施した人も、受けた人もとらわれの気持ちを残さないことが大切です。

「ご法事をしてお礼に財物を差し出すのだけがお布施と思うのは、布施のほんの一面で、それは法施・無畏

施と財施の施し合いと考えるのが本当です。したがって、読経や法話への労働報酬ではなく、あくまで仏さま、ご先祖さまへの「恩報謝」の気持ちからするものです。包紙には、御経料とか御札と書かずに『御布施』と書くべきです。

「ご法事のことを法要というのは、法(仏教のかなめ)をきくためですから、御布施の額もなるべく丁度で損をしないようになどと惜しみながら出すのでは、達磨大師のいう『無功德』というほかありません。必ずじゅうぶん追善のところが届くと思われるように御布施をすべきです。それでこそ、はじめて喜捨、喜び捨てるという御布施の精神が生きてくるのです。

「ご法事のときに、御布施以外に故人の追善供養にと、お寺に仏具などを寄進されるお家もあります。

○上棟式厳修される

昨年末十二月十九日、龍燈会館の上棟式厳修されました。午後四時より、一階の特設祭壇を前に、紅白の鯨幕で荘厳

された会場には、工事関係者三十五名、当院総代六名、それに弊師弘忠和尚及び寺族が参列するなか、小納を導師に随喜寺院二ヶ寺の和尚方の読経で厳肅に執行されました。法要後、ささやかな祝宴に

境内が美しくなることは檀信徒の皆様の喜びであり、

● 出逢いが人生を変える

悩める大国アメリカが、四十二代大統領に弱冠四十六歳のビル・クリントン氏を選びました。クリントン新大統領は歴代大統領の中で三番目に若く、第二次世界大戦後に生まれたベビーブーム世代初の大統領となります。

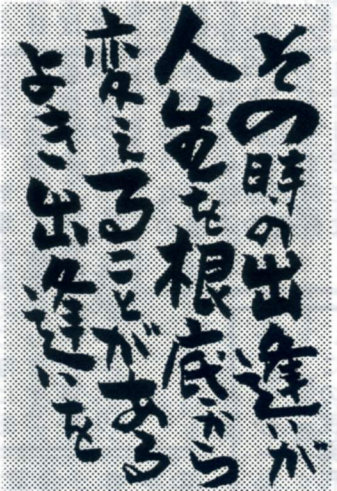
将来、音楽家か政治家になるかで迷っていた若き日のクリントン少年が、政治家を志すきっかけになったのが故ケネディ大統領との出逢いだったそうです。

詩人相田みつおさんは、下のような詩をつくっています。人生を根底から変えるような出逢い、まさに、十七歳のクリントン少年の出逢いは、そのような出逢いだったのでしょうか。

この度めでたくご婚約が決まった皇太子殿下と小和田雅子さんとの出逢いも、そんな出逢いだったそうです。六年前皇居の晩餐会での雅子さんとの出逢いが、今回の雅子さんとのご婚約につながったのです。きっと、お二人は、出逢いの不思議さ、尊さを感動深くかみしめられることでしょう。

いずれの出逢いも、ものごとくに感動できるみずみずしいお心をお持ちだったからこそ、その後の人生に大きな影響を与えるような出逢いにめぐりあわれたのではないのでしょうか。

人間をいのちの根底から動かすものは、理屈やお金の有無ではありません。人間としての自分自身の深い感動です。『感動』とは『感じて動く』と書きます。頭ではなく、身も心も、それがまるまるまる『いのち』がふるえるような感動が、人生を根底から変えるのです。そして、その為は何よりも大事なことは、どんなことにも感動できるみずみずしい心を持つことだと思います。



寄附勧募締切は

3月31日です

寄附者芳名板製作発注の為一応3月31日付けで入金完済を宜しくお願いいたします

編集後記

▼新生九島院建設の槌音が境内に響いていませう。いよいよ春。春は別れと出逢いの季節です。前号で取り上げた「貴&リエ」の破談騒動皇太子殿下と小和田雅子さんとのご婚約決定暗と明をわけた出来事でした。本当に縁談とはよく言ったものです。赤い糸がもつれたのでしよう。赤い糸がもつれたのでしよう。今回の建設工事には、実におおくの方々の

ご縁をいただきました。じつに三百九十五人(一月二十五日現在)の方々から、ご寄附のお申込みを頂いております。(四千二百三十四万円納金済)
▼今秋には落慶法要、それに小納の晋山式と慌ただしい毎日です。お寺の世界もしきたりがうるさく、その準備も大変です。
▼お盆の棚経に加担してくれてる山下智玄師が、この春より当院に常駐で寺務を手伝ってくれることになり当院に常駐で寺務を手伝っている小納にとり朗報です。日夜東奔西走騒動にならないよう頭を丸めず？期待したいものです。

山 門 会

(彼岸会法要)

3月23日(火)

午後1時より

ご先祖供養です。宗旨に関係ありません。ご回向のお申込をお願いします。

法 話 ・ 服部祖承禪師(本山布教師)

ご案内